



## 会員みなさまへ

すっかり春めいて、森を楽しむ季節になりました。日頃の保全活動の成果が散策を楽しまれる人々に理解される事でしょう。この度「こもれびの森博物誌」として、樹木・草花・鳥・昆虫・きのこなど森の中の不思議や感動を、隔月でお伝えしていくことにしました。皆様からの投稿もお待ちしています。よろしく！



### キクザキイチゲ 別名-キクザキイチリンソウ

キンポウゲ科・多年草・花期-2~4月・丈-10~30cm

林の中に生育し、花は淡紫色ときときには白色がある。花の咲き方が“キク”の花のようで茎頂にひとつの花を咲かせるので“イチゲ”という。

アネモネの仲間は、日を受けて花を開き、雨の日や夕方は花を閉じていることが多い。近年は自然の森ではあまり見つけることが出来ない花ですが、この森に誰かが移植したのでしょうか3月始に美しく咲き誇っていました。一昨年見たときには株が少なかったようですがだいぶ増えているようです(田崎)。

(この写真撮影後に一部が何者かに掘り起こされました)

## 木もれびの森の樹木

木もれびの森は「かながわの美林50選」に選定された首都圏最大の平地林であり、もともと薪炭林として利用されてきたクスギ、コナラの雑木林です。植生上はクスギ・コナラ群落とされていますが、森全体を詳細に見るとスギ・ヒノキの針葉樹の植林地(大野台地区)やクスギ、コナラ等の落葉樹から放置されて数十年を経過しているため、アオキ、樫



類等の照葉常緑樹等の陰樹林に遷移して、陽樹と陰樹の混交林やさらに極相に達した陰樹林(大沼、麻溝地区)が現出しています。これが住宅に隣接した木もれびの森の現況の一部でもあります。

今回、私達は大野台地区の活動地の散策路沿いに樹木28種類、58枚の樹名板を取り付けました。散策者の利便になれば幸いです。次回から樹名板を取り付けた樹木を中心に記していきます(林)。



## 木もれびの森の野鳥たち(東林野鳥の会・本会賛助会員の瀬尾美恵子氏に寄稿していただきました)

3・4月、野鳥たちは大忙しのときを迎えています。シジュウカラやコゲラのように一年をこの森で暮らす鳥たちは、恋の季節から巣作り・子育ての季節へと向かいます。越冬のために渡ってきたツグミたちは、北の繁殖地へ旅立つ前の最後の栄養補給でコロコロに太っています。入れ替わりに南の国からツバメの便りも近し。

木もれびの森では木々の芽立ちとともに虫が動き出し、いよいよ鳥にとっての子育て準備が整いつつあります。シジュウカラがツツピーツツピーとラブソングを歌い、エナガは羽毛を拾い集めて一足早い巣作り開始。羽をくわえて飛んでいくエナガに出会えるかもしれません。キツツキのコゲラはノミのようなくちばしで何日もかけて朽木に小さな丸い巣穴を掘ります。掘った木屑を穴の外へパツパツと散らして、その夢中な姿にきつと感動です。

(3月に観察された鳥) オオタカ コジュケイ キジバト アオゲラ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ キレンジャク ヒレンジャク ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種)